（２４）　未成熟とうもろこし（スィートコーン）

※スィートコーンは農薬登録上、野菜類のグループではなく、穀類のグループに属する。

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
1 ごま葉枯病 *Cochliobolus heterostrophus*	1.早期に肥切れさせない。 2.連作を避ける。 3.発病葉は堆肥にする。			
2 倒伏細菌病 *Dickeya zeae* *Pseudomonas marginalis*の1系統	1.アワノメイガ等の食害痕から感染するので、害虫の防除を行う。			
3 苗立枯病 *Fusarium avenaceum* *Penicillium* sp. ピシウム苗立枯病 *Pythium sylvaticum* *P. debaryanum* *P. ultimum* *P. spinosum* *P. paroecandrum*	1.床土は排水のよい無病のものを選ぶ。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キヒゲンＲ－２フロアブルは乾燥種子を塗沫処理する。	播種前	M3	キヒゲンＲ－２フロアブル
4 すす紋病 *Setosphaeria turcica*	1.発病葉は堆肥にする。 2.冷涼多雨で多発する。	発病初期	3 7・11	トリフミン水和剤 （混）シグナムＷＤＧ
5 紋枯病 *Thanatephorus cucumeris*	1.多肥、密植を避ける。 2.畝間の通風をよくする。 3.病原菌はイネ紋枯病菌と同一である。	発病初期	7 14 U18	アフェットフロアブル リゾレックス水和剤 バリダシン液剤５
6 アワノメイガ	1.収穫後の株及び残さは直ちにすき込み、処分する。 2.圃場周辺のイネ科雑草防除をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.バダン粒剤４は、アワノメイガふ化盛期に雄穂、雌穂にかかるように、株の上から均一に散粒する。 2.本虫対象に防除を実施しているところでは、イネヨトウ（ダイメイチュウ）の発生が少ない。	発生初期	3A 3A 3A 5 14 14 28 28 28 28 30 1B･3A	アグロスリン乳剤 アディオン乳剤 トレボン乳剤 ディアナＳＣ パダン粒剤４ パダンＳＧ水溶剤 フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル５ ヨーバルフロアブル ベネビアＯＤ ブロフレアＳＣ （混）パーマチオン水和剤
7 アワヨトウ	1.圃場周辺のイネ科雑草防除をする。	若齢幼虫期	3A 3A	アグロスリン乳剤 トレボン乳剤
8 オオタバコガ ヨトウムシ	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。 2.ディアナＳＣ、ヨーバルフロアブル、ベネビアＯＤ、プレバソンフロアブル５はオオタバコガに登録がある。	若齢幼虫期	5 6 28 28 28	ディアナＳＣ アファーム乳剤 ヨーバルフロアブル ベネビアＯＤ プレバソンフロアブル５
9 ツマジロクサヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	播種前（塗抹）	28	ルミビアＦＳ
		発生初期	4A 6 11A 13 14 15 28 28 28 30 UN	ダントツ水溶剤 アニキ乳剤 ジャックポット顆粒水和剤 コテツフロアブル パダンＳＧ水溶剤 カスケード乳剤 ヨーバルフロアブル プレバソンフロアブル５ ベネビアＯＤ ブロフレアＳＣ プレオフロアブル
10 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	発生初期	6	アニキ乳剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

未成熟とうもろこし（スィートコーン）

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
11 アブラムシ類	1. 圃場周辺の雑草防除をする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. エコピタ液剤はムギクビレアブラムシに登録がある。	発生初期	3A	アグロスリン乳剤
			3A	アディオン乳剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	モスピランSL液剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			29	ウララD F
			－	エコピタ液剤
12 ネキリムシ類	1. 被害株周辺の土を掘って、幼虫を捕殺する。	播種前（塗抹）	28	ルミビアFS
		生育初期	3A	ガードベイトA
13 カメムシ類	1. 圃場内や周辺雑草を防除する。 2. ダントツ水溶剤はアカスジカスミカメに登録がある。	発生初期	4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
14 ハダニ類	1. 周辺雑草を除去する。	発病初期	13	コテツフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			30	グレーシア乳剤